

第12回(平成17年度)
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2005年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成17年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、すぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第12回目となる今年度は、92点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞1点を決定いたしました。

受賞作品は、自然景観と調和した親しみやすい地域開放型の施設、中庭などを巧みに活用し、入居者が生き生きと生活できる心地よい環境を実現しているユニバーサルデザインに配慮した施設、屋上緑化、雨水利用、自然通風などを活用し、環境へ配慮した施設、地元の木材を使用し、住まいづくりを通じて地域再生に関わろうとする住宅など、いずれも平成17年度の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様的情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

県といたしましても、ユニバーサルデザインによる建築物の整備、環境にやさしい建築物の整備など、県民一人ひとりが安全で安心に暮らせる街づくりを推進しております。こうした取り組みを通して、豊かさを実感し、夢と希望、自信と誇りが持てる千葉県づくりを、600万県民の皆様と進めていきたいと思っています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など関係の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

目次

千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
城西大学鋸南セミナーハウス(I期)	… 3	東京理科大学薬学部新キャンパス	… 4
AIRHUT	… 5	特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム深泉荘	… 6
日本大学理工学部船橋校舎14号館	… 7	マブチモーター株式会社本社棟	… 8
宇津木邸	… 9	応募(推薦)建築物一覧	… 10
千葉県建築文化賞選考委員会	… 10		

応募92点から7点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

千葉県建築文化賞は今回で12回になる。第1回の平成6年はバブル崩壊の直後にあたり、過熱化した開発のなかで流行商品のように消費された建築の社会的使命を回復し、快適な街づくりに結びつけていくことが、本賞創設の目的のひとつであった。そして、今回の平成17年は、首都圏を中心にマンション業界がミニバブルに沸き立つなかで、耐震強度偽装という信じがたい事件が勃発した。安全性は建築の原点である。私たちは、建築の社会的使命を真摯に問い直し、うるおいとやすらぎに満ちた街づくりを進めなければならない。本賞が、安全で安心な暮らしを支え、より豊かな環境をはぐくむ建築を表彰することによって、建築への信頼回復にいささかでも貢献することを願ってやまない。

第12回千葉県建築文化賞は平成17年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数92点の

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

応募をいただいた(部門別内訳は下表のとおり)。昨年を30点近く上回る作品をお寄せいただいた関係者の熱意に深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門4点、環境部門4点を選んだ。次いで11月中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞1点を表彰候補作品として決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定 (第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		58	5	3	—
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		15	4	1	—
環境に配慮した建築物		19	4	2	1
合計		92	13	6	1

(総 評)

景観に配慮した建築物

応募58点は、いずれも景観形成への注意深い配慮を感じさせるものであったが、今回は教育施設や住宅に好感の持てる作品が多かった。

「城西大学鋸南セミナーハウス(Ⅰ期)」は、街と海を見晴らす山の上の中学校跡地をそのまま活かし、自然景観と調和した、きめ細かく親しみやすい地域開放型の施設を実現している。「東京理科大学薬学部新キャンパス」は、既存の自然環境を活かし、周到的な配置計画とデザインによって快適な研究・学習環境を実現している。「AIR HUT」は、住宅街に建つ診療所付きの住宅であり、ユニバーサルデザイン部門の応募作品だが、端正なデザインと街の思い出に配慮した敷地計画が景観面で高く評価された。この結果、3点が建築文化賞とされた。

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

この部門は、前回までの高齢者・障害者等に配慮した建築物の部を発展させ、今回新たに設けられたものである。応募は15点であり、福祉施設以外に専用住宅や病院診療所に意欲的な作品が見られた。

建築文化賞の「特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム湊泉荘」は、延床面積7,000㎡を超える大規模な施設だが、中庭と光庭を巧みに使って2階建ての建物を分節し、入居者が生き生きと生活する心地よい環境を実現している。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は19点であり、今回は比較的規模の大きな作品が委員の注目を集めた。

「日本大学理工学部船橋校舎14号館」は、複層ガラスの多用による昼光利用、自然換気、屋上緑化、雨水利用、クール・ウォームチューブなどを活用し、環境に総合的に配慮している。「マブチモーター株式会社本社棟」も、ダブルスキンカーテンウォールを利用した空調負荷低減と自然通風、建設残土を活用し自然に任せられたランドスケープなど、環境への総合的配慮が高く評価された。この結果、2点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「宇津木邸」は、地元の木材を使って地元の技能者がつくる“地域循環型”の住宅であり、住まいづくりを通じて地域再生に関わろうとする意欲が共感を呼んだ。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成12年4月1日から平成17年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨にそっているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺環境に十分配慮され、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②誰もが公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、社会への参加や日常生活が容易に出来るような環境整備がされているもの。
 - ③エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：学校法人城西大学
設計：株式会社久米設計
施工：清水建設株式会社 千葉支店
所在地：安房郡鋸南町下佐久間字西田子道上1510-2

南房の風景に溶け込む地域開放型施設

城西大学鋸南セミナーハウス(Ⅰ期)



長く連なるドミトリのデッキ空間が豊かな自然を楽しむ。

敷地は、安房勝山の海岸から東に約1.5km、街と周囲の山並みと浦賀水道を見晴らす海拔65mの丘の上に位置する。ここには、かつて鋸南第二中学校があった。セミナーハウスは、新たな造成を行わず、中学校の跡地をそのまま活かして建てられている。

施設は、東側の高みを背に、エントランス棟、ドミトリ、セミナールームが、木立ちに縁どられた庭を囲んでL字形に配置されている。3つの棟は、いずれも庭に向かって大きな開口をとり、前2者では広いテラスが、屋内と屋外の空間を結び付け、伸びやかな眺望を楽しむことのできる心地よい半屋外空間を生み出している。

L字の要に位置するエントランス棟は、主要部をRC造とし、それを集成材の柱・梁・斜材の架構で覆うことによって、2層吹抜けの内部空間とともに、透明で軽快なファサードをつくりだしている。左

右のセミナールームとドミトリは、高さを抑えた軒と連続するデッキによって水平性を強調しつつ、適度のスケール感で分節されている。丘の上という敷地条件に配慮し、存在感を過度に主張せず、風景の中に溶け込んだ、好感の持てる建築である。

学生の利用だけでなく、地域貢献が重視され、地元住民のための公開講座が定期的に開かれているという。また、今後、Ⅱ期工事でドミトリとセミナールームの増築などが予定されている。周囲の環境との調和を維持しつつ、地域開放型の施設として、いっそうの充実が期待される(北原理雄)。



カフェテリア、ラウンジの夕景。



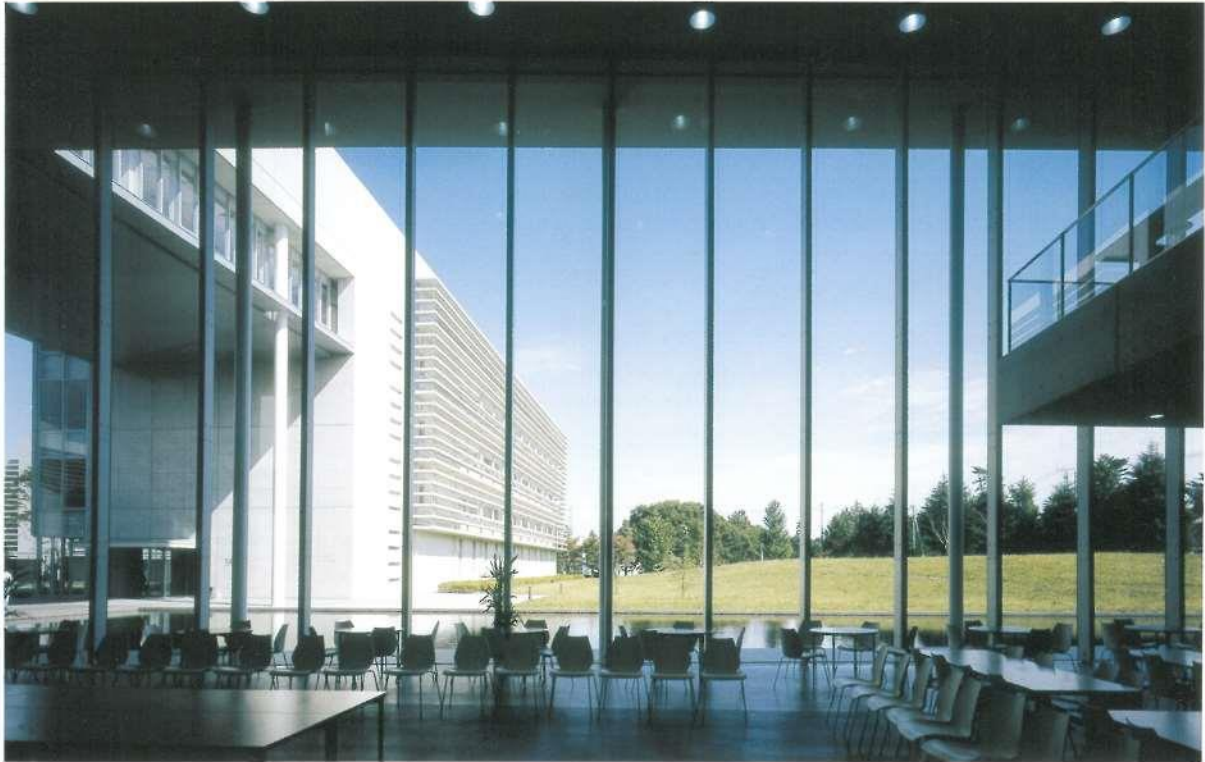
訪れる人々を導き入れる杉板の壁とエントランス。

(撮影/三輪晃久写真研究所)

建築主：学校法人東京理科大学
 設計：株式会社松田平田設計
 施工：清水建設株式会社
 所在地：野田市大字山崎字北亀山2668他

豊かな自然環境と融合するキャンパス

東京理科大学薬学部新キャンパス



カフェテリア

東京理科大学薬学部の新キャンパスは、千葉の恵まれた自然を取り込んだ、ゆったりとしたキャンパスになっている。「豊かな自然環境と融合するキャンパス」をテーマとして、その主題が堅実な建築的手法によって実現されている。中庭型の構成をとっているが、中庭の閉塞感とは四方に抜ける軸線によって緩和され、周辺への連続感を感じさせて、さわやかである。運用によっては、地域に開き、様々なアクティビティを展開できる可能を感じさせる。

また、池を目前に配した食堂や学生ホール、その周辺になんとなく学生がたまる空間が用意されているのも、ゆとりを感じ

させて好感もてる。

ファサードのGRCのルーバーは、研究室棟の乱雑になりがちな立面を整え、夏期の日差しの制御や外壁の長寿命化のために付されている。確かに研究室における実験等の煩雑な機能をコントロールする目的は理解されるが、これに関してはやや大味な感もいなめなく、室内からの眺望を若干阻害しているようにもみえた。

いくつか議論の箇所はあったが、環境を積極的に受けとめた佳作であることに異論はなく、郊外型のキャンパスの好例として評価できるだろう(篠原聡子)。



講義棟南面



池・ブリッジ

(撮影/平剛風アトリエ)

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：M.O氏 Y.T氏

設計：大成建設株式会社 一級建築士事務所

施工：大成建設株式会社 千葉支店

所在地：流山市

桜が目印、フロントヤードが街にゆとりをつくる

AIR HUT (えあはっと)



診療所エントランス側からの外観

宅地整備が整わぬまま広がった住宅地の街路は建て込んで分かりにくい。ようやく見つけたこの家の目印は5差路の角地に残された桜の大樹と、街路にゆとりを提供するフロントヤードの広がりだ。

敷地は391.66㎡、建坪257.59㎡、3階建ての建物の1階は診療所で、2、3階は一階裏手に入り口をもつ2世帯3世代住宅である。診療所入り口のあるフロントヤードは救急車停車スペースもかねて面積を割いているので、建物は敷地境界ぎりぎりだ。しかし東面道路沿いの側面は、診療所待合室の採光と修景をかねたフェンスと植栽が巧みに配慮され、あわせて道路側からも双方見え隠れの空間と緑が好感を与えている。

建物内部は、職住分離と動線の便宜性から2箇所の階段とエレベーターも備えており、2世帯のリビングやファミリールームなどを共有空間として広くとることで、快適な家族交流をうながす生活風景をうまく演出している。

施主にとって住宅への要望は、なにより日常生活での使い勝手にある。そして住み心地だ。使い勝手は家族間の課題だが、住み心地は快適なコミュニティライフへの協力姿勢が必要だ。それは近隣建物相互のより

よい調和をはかる具体的な建築設計に示されることが望ましい。

快適で美しい街づくりへの意識向上とともに、ニュータウンでは「デザインガイド」が一般化され、既存住宅地でも特区単位で建築物の「デザイン協定」の取り組みが始まりだしているが、この家の良質な設計に特記されてよい景観への配慮は、ガイドに先立つ街づくり参加意思を示す好例モデルとして評価された(野口瑠璃)。



1階 診療所待合室



連続する緑を取り込んだファサード

(撮影/三輪晃久写真研究所)

建築主：社会福祉法人 昭和村
 設計：株式会社榎本建築設計事務所
 施工：西松建設株式会社東関東支店
 所在地：市原市万田野732-6

一人ひとりの暮らしを支えながら、地域福祉の核となる施設

特別養護老人ホーム市原園・ 軽費老人ホーム溪泉荘



エントランス面夜景

この施設は、養老溪谷に位置していた老朽化した既存の施設の建替え事業として、緑重なる山間部の新しく切り拓かれた土地に誕生した高齢者施設である。

広大な敷地に伸びやかに計画された建物は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨造2階建て、床面積7,124.53㎡。特別養護老人ホーム60人（短期利用を含む）、軽費老人ホーム100人に加えてデイサービスセンター、在宅介護支援センターと、複数の機能を持つ大規模施設である。

しかし、正面玄関を一步入ると、それぞれの施設がわかりやすくゾーニングされ、居住部分は入居者主体の適度なスケールの空間が創り出されていて心地よい。各ユニットは（特養、軽費共）ミニキッチンを設置したりリビング（談話室）を中心に、プライベート空間としての個室を確保した上で、多様な生活に対応するための小さな共有スペースが巧みに配られて、小人数の馴染みの関係の中で、お年寄りが安心して暮らして欲しいという思いが感じられる。建物内部に設けられた中

庭は、採光・通風を確保する役割だけでなく、室内にとどまりがちな入居者の暮らしを外部に誘い出す仕掛けとなっている。

長い経験から培われた事業主の施設運営の確かな理念と、全室個室、ユニットケアに対応した建築が融合して、開所からまだ日が浅いのに、落ち着いた暮らしぶりが感じられる施設である。「環境がもつ介護の力の大きさに驚いている」というスタッフの言葉が強く心に残った。

山間部に位置しながら、広い敷地と建物を活用して、地域との積極的な交流が図られていて、周辺の植栽が成長する頃には、地域から信頼される「福祉の核」となることを予感させる施設である（夏目幸子）。



地層面を意識した全景



施設のある食堂（軽費老人ホーム）

建築文化賞

環境に配慮した建築物

建築環境教育拠点のモデル

建築主：学校法人日本大学
設計：株式会社日本設計
施工：大成建設株式会社 千葉支店
所在地：船橋市習志野台7-24-1

日本大学理工学部船橋校舎14号館



広場に南面する北棟共用スペース

日本大学理工学部船橋キャンパスでは、これまでも意欲的な大学施設建築の建設に取り組み、数々の成果を上げてきた。今回応募され審査の対象となった14号館は、「地球環境時代の持続可能な社会の構築に資する建築」を主なテーマに掲げている。視覚的にもユニークな制振システムの採用とともに、パッシブデザインを基調とする様々な環境共生技術が総合的に計画・導入された。

その代表的な建築要素はガラスシャフトによるソーラーチムニーやクール・ウォームチューブをはじめとする、温熱環境を自然換気や地熱によって快適にコントロールできる省エネルギー



ソーラーチムニー頂部



自然光を取り込む開放的な教室

型のシステムである。その他の太陽光発電装置やアクティブ型の設備システムも多数導入され、見方によっては、現在利用できる環境制御技術のデパートのような観もないわけではない。

しかし、建築を学ぶ学生たちは講義や製図の作業を繰り返す日常の中で、同時に整備された中庭のような「センター広場」と

呼応し、居ながらにしてその仕組みや効果が体験できる。しかも、高質な仕上がりを見せる総合的な建築環境は高く評価できる。また、教育施設としての空間構成にも新しい魅力的な試みが数多く試みられ、環境技術と一体化された空間やシステムは、決して生煮えの技術が単に付加されただけの建築ではないことを実感させてくれる。

今後、教育や研究の一環としてこの建物の事後検証を重ねる過程で、さらなる発見と知見の充実につながる成果を期待したい。建築文化賞に値する力作であるとの評価が審査員の大勢を占めた(岩村和夫)。

(撮影/三輪晃久写真研究所)

建築主：マブチモーター株式会社
 設計：日本アイ・ビー・エム株式会社
 設計：株式会社日本設計
 施工：清水建設株式会社 千葉支店
 所在地：松戸市松飛台430

建築と設備の融合による省エネ建築

マブチモーター株式会社本社棟



ダブルスキンカーテンウォールを採用した外観デザイン

緑豊かな八柱霊園に隣接する敷地周辺は、かつて「野馬土手」に囲まれた長閑な軍用馬の放牧場であった。

外構計画では、このような土地の地理的条件や歴史的文脈を継承して、建物周囲に建設残土を利用してアンジュレーションのある丘を築き、せせらぎやビオガーデンを配して周辺の緑と調和する自然空間の再現を試みた。

建物中央のアトリウムを挟んで、東西に1,500㎡の無柱大空間を4層重ねて立体型ワンオフィスを構築し、効率と交流性を高めた執務空間を創出している。

アトリウムから自然光を導入し、奥行き深い執務空間の居住性を高め、広いリフレッシュ空間として活用される階段踊り場は、オフィスの上下階を動線的、視線的に一体化する役割を果たしている。

ガラスのダブルスキンサッシを採用して空調負荷低減を図り、自然採光及び通風を採り入れ、外気冷房、氷蓄熱、昼光照明制御、個人で風量調節できるタスク空調等を駆使して、建築と設備の融合による効率的な省エネルギーを実現している。

グローバル企業の本社機能が、地震時に寸

断なく業務継続できるよう免震・制震構造を採用するとともに、外観もガラスと本積みレンガの明快な構成で、汚れ難いディテールを工夫してメンテナンスフリーに配慮している。

地域との融合、地球環境への配慮を標榜するマブチの環境基本方針に基づいて100年建築を目指した本社棟は、精緻な企業イメージを彷彿させる格調高いデザインで、景観面・環境面においてバランスのとれた優れた作品として高い評価を集めた。

(明智克夫)



自然換気機能と連続した内部空間を創出するアトリウム



自然素材を様々なパターンにより積層させたレンガ中空積工法

(撮影/新建築社)

建築文化奨励賞

環境に配慮した建築物

建築主：宇津木幸夫

設計：有限会社稗田総合建築設計事務所

施工：丸西建材有限公司

所在地：山武郡成東町

地域に根ざす木の家

宇津木邸



居間、建築、家具からストーブの燃料へ、木を使い切る。

地域の森林から伐採される木材を地場で建築材料に加工し、その地域に建てる木造住宅に活用する。この家づくりにおけるいわゆる「地産地消」の試みは全国各地に広がっている。時代の趨勢であるグローバルあるいはナショナルな流通に依存する産業構造に一石を投じ、林業の川上から材木流通の川下に至る地場産業を活性化するとともに、流通過程にかかる不必要なエネルギー消費の削減で、二酸化炭素の固定化に少しでも寄与することなどがその主眼である。

この住宅はいわゆる本家の住まいである。地域の地場産である「山武杉」ととことん活用し、堂々とした家構えを在来工法

による切妻の大屋根で表現した木の家である。建築家は、この恵まれた与条件の中でも自らの信念と手法を貫き、主体構造から家具にいたるまで、地域の木のぬくもりに包まれたおだやかで次代に引き継がれる住まいを作った。そして、薪をバイオマスの資源として活用し、エアコンを必要としない環境共生型の居住環境を実現したのである。

このように、建築家の思いと戦略が詰まった住宅作品だが、なによりも住み手の穏やかで誇らしげな表情の中に、この家の持つ意味が凝縮されていた。このような活動の今後の展開を支援する意味からも、奨励賞が授与された(岩村和夫)。



南側外観



座敷

(撮影/ABE写真工房)

応募(推薦)建築物一覧(地域・市町村別) (77作品)

惜しくも選にもれた建築物にも、それぞれ優れた配慮や特長がありました。携わられた方々に敬意を表し、ますますの御活躍を期待しています。

※ ◎は、表彰の対象となった作品です。
 ※ ★は、現地調査の対象となった作品です。
 ※ 市町村名は、応募当時の名称です。
 ※ 部門等 重複しての応募作品があります。

[千葉市内]	
三和会館	中央区
千葉県森林会館	中央区
千葉県不動産会館	中央区
★K's CLINIC (小浜クリニック)	中央区
D'クラティア幕張本郷	花見川区
あやめ台幼稚園	稲毛区
稲毛保育園	稲毛区
ミサワホーム千葉支店	稲毛区
作草部の家	稲毛区
千葉県総合スポーツセンター陸上競技場メインスタンド	稲毛区
千葉市若葉保健福祉センター	若葉区
のぞみ幼稚園	若葉区
A.Landおゆみ野動物病院	緑区
千葉市斎場	緑区
千葉市立おゆみ野小学校	緑区
石川邸	緑区
★DEVICE#9	緑区
セイワ美浜介護老人福祉施設	美浜区
幕張ベータタウン パティオス 14番街	美浜区

[千葉地域]	
黒い壁の家	習志野市
八千代台の家	八千代市
◎特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム湊泉荘	市原市

[東葛飾地域]	
市川七中行徳ふれあい施設	市川市
D'クラティア行徳	市川市
介護老人保健施設 つばさくらぶ	市川市
八幡クロマツ林の家	市川市
★千葉県市川児童相談所	市川市
市川北方の家	市川市
★東船橋の家	船橋市
上山町の家	船橋市
◎日本大学理工学部船橋校舎14号館	船橋市
◎マブチモーター株式会社本社棟	松戸市
聖徳大学生涯学習社会貢献センター	松戸市
古ヶ崎の家	松戸市
ケアハウス・なでしこ	松戸市
千葉県野田警察署庁舎	野田市
◎東京理科大学薬学部新キャンパス	野田市
里区自治会館	野田市
芦原ビル	柏市
柏の葉公園庭球場クラブハウス	柏市
つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅」	柏市
千葉大学(柏)管理研究棟	柏市
流山市クリーンセンター	流山市
ハミングバード柏の葉公園	流山市
◎AIR HUT	流山市
かやの木保育園	流山市
ラ・フィネス新浦安	浦安市
浦安市若潮公園体験学習施設	浦安市
浦安市立高洲小学校	浦安市

[印旛地域]	
三里塚コミュニティセンター	成田市
印旛衛生施設管理組合汚泥再生処理センター	佐倉市
志津大山記念会福祉施設	佐倉市
八街駅の自由通路と駅舎	八街市
富里市立図書館	富里市
印旛のアパートメント	印旛村

[香取地域]	
下総町の家	下総町

[海匠地域]	
千葉科学大学	銚子市

[山武地域]	
東金レイクサイドヒル日吉台の家々5棟	東金市
東金市立東金東小学校	東金市
フェアウェイフロントの家	東金市
大網の家	大網白里町
◎宇津木邸	成東町
さんぶの森元気館	山武町

[長生地域]	
千葉市少年自然の家	長柄町

[夷隅地域]	
勝浦市こども館	勝浦市
★カーザ・リベラ	勝浦市
大原の家	大原町

[安房地域]	
Yアトリエ	鴨川市
JOSAI安房ラーニングセンター	鴨川市
鴨川市立安房東中学校	鴨川市
◎城西大学鋸南セミナーハウス(I期)	鋸南町
千倉町保健センター・ちくら介護予防センターゆらり	千倉町
野崎邸	千倉町
丸山中学校	丸山町
丸山町学校給食センター	丸山町

[君津地域]	
ブランコの家	富津市
健康づくり支援センター	袖ヶ浦市

千葉県建築文化賞選考委員会

- 委員長 北原 理雄：千葉大学工学部教授
 副委員長 岩村 和夫：武蔵工業大学環境情報学部教授
 委員 明智 克夫：社団法人千葉県建築士会会長
 委員 篠原 聡子：日本女子大学家政学部助教授
 委員 夏目 幸子：建築家・千葉県医療技術大学校講師
 委員 野口 瑠璃：工業・環境デザイナー

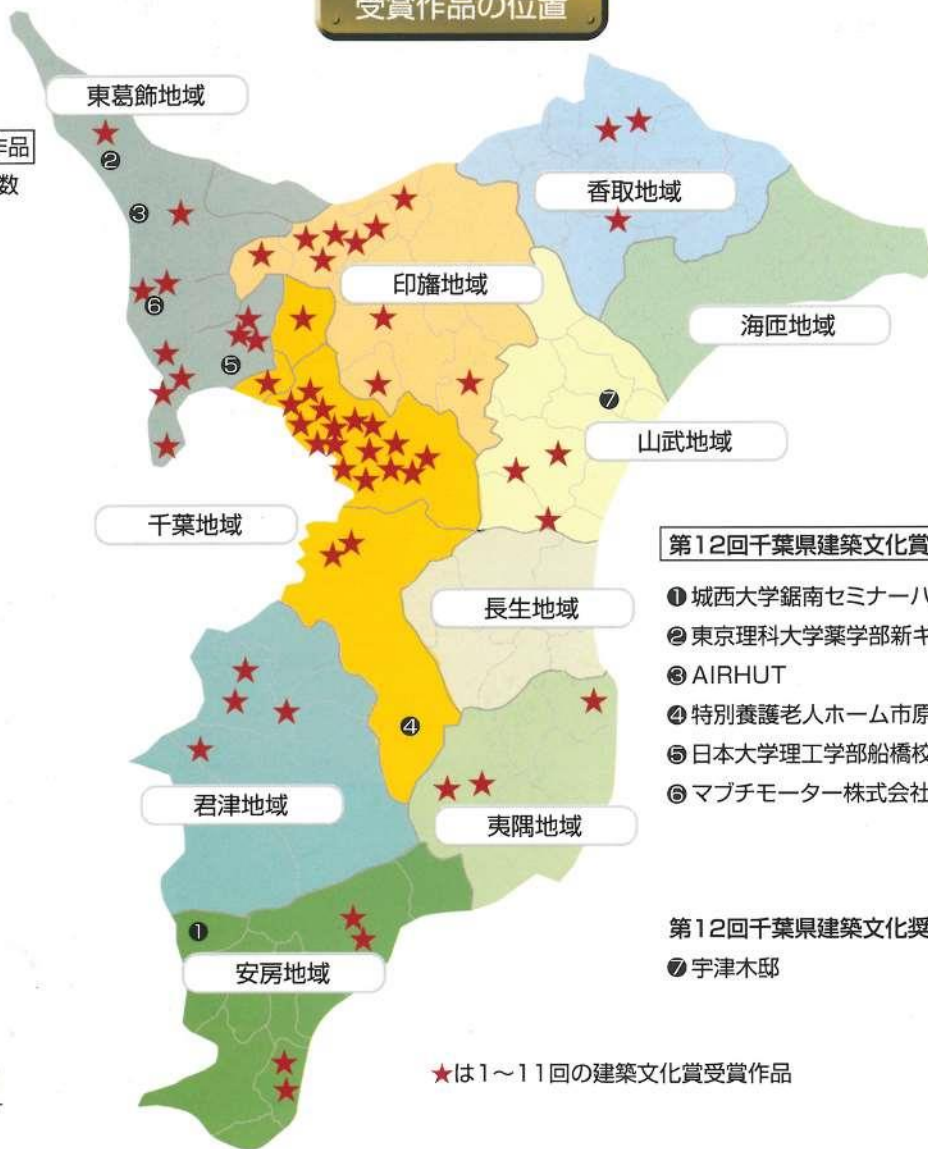
【敬称略 委員は五十音順】

受賞作品の位置

建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数

千葉市	16
習志野市	1
八千代市	1
市原市	3
市川市	2
船橋市	4
松戸市	3
野田市	2
柏市	1
流山市	1
浦安市	2
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	1
印西市	3
白井市	1
栄町	1
本埜村	2
佐原市	2
栗源町	1
東金市	2
大網白里町	1
大多喜町	2
岬町	1
鴨川市	2
鋸南町	1
千倉町	2
木更津市	3
君津市	1
計	64



第12回千葉県建築文化賞

- ① 城西大学鋸南セミナーハウス(Ⅰ期)
- ② 東京理科大学薬学部新キャンパス
- ③ AIRHUT
- ④ 特別養護老人ホーム市原園・軽費老人ホーム湊泉荘
- ⑤ 日本大学理工学部船橋校舎14号館
- ⑥ マブチモーター株式会社本社棟

第12回千葉県建築文化奨励賞

- ⑦ 宇津木邸

★は1～11回の建築文化賞受賞作品

千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧

第 回	年	応募総数	建 築 文 化 賞			計	建築文化奨励賞
			景観に配慮	ユニバーサルデザインに配慮	環境に配慮		
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
1～12	計	1,098	31	20	13	64	35

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。

※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。

※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設（第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」）。

千葉県建築文化賞は、多くの方々の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、64の建築物が建築文化賞を受賞し、それぞれの地域に根付いています。

第13回の作品募集は、平成18年夏に行う予定です。皆様の御応募をお待ちしております。

お問い合わせ先

千葉県県土整備部建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

TEL.043(223)3186 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5

TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101